

## シャコガイの種苗放流指導（那覇地区漁協）

多和田 真 周

### 1. 現 状

那覇地区漁協は近海鯖延縄・一本釣り漁業（1～2週間操業の大型漁船経営体が多い）が主体で沿岸浅海域が少なく、栽培漁業は今まで皆無であった。今回、小型船（くり舟中心）所有の組合員が協議し、シャコガイ放流を計画、放流について要請があった。

### 2. 目 的

栽培漁業の推進

### 3. 協力者

那覇市役所・那覇地区漁協・水産振興課・水産試験場

### 4. 経 過

H 6年6月8日に那覇地区漁協会議室においてシャコガイの種苗放流の概要及び他漁協における現状を漁協役員に説明する。

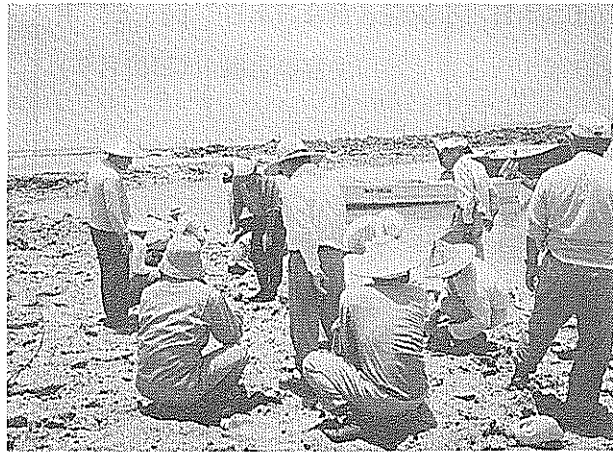
6月15日に那覇地区漁協会議室において小禄、

若狭、安謝の各支部役員、役所水産係が参加して種苗放流の事前打ち合わせを行う。その後、放流場所2ヶ所（浦添市小湾地先・瀬長島地先大瀬）の岩盤の質や干出状態、透明度、潮流等について調査した。

6月15日にはシャコガイの種苗放流の研修会を水産業改良普及所会議室において、組合員及び関係者の参加により、シャコガイの種苗放流用ビデオの鑑賞、放流方法の説明を行い、放流当日、作業が順調に進行するよう実施した。（参加者は合計31名）

6月24日にはシャコガイの種苗放流を実施、瀬長島地先大瀬は小禄、若狭支部組合員29名により干出時に埋め込み法により1,000個を放流。浦添市小湾地先は安謝支部組合員16名により水中ドリル法で1,000個を埋め込み放流した。

7月20日にはシャコガイ放流後の生息状況調査を実施、瀬長島地先大瀬放流群は試験区内生残率は61.6%・浦添市小湾地先放流群は同様に88.0%の結果であった。



埋め込み法によるヒメジャコの種苗放流状況  
（瀬長島地先大瀬）